

BECC JAPAN 2022 発表要項 — ライトニング発表者の皆様

BECC JAPAN 2022 開催にあたり、7月28日(木)本会議の発表詳細について、下記の通りご案内いたします。

1. 会場について

- 本年は、Zoom ミーティングを使用した完全オンライン開催となります。
- 会場の参加 URL および入室の際のパスワードは、7月25日(月)までにご案内いたします。

2. 発表資料について

- 発表資料はパワーポイントやPDFによるスライドでご準備ください。
 - 発表時は、資料をご自身のPCで再生し、視聴者全体へ画面共有していただきますようお願いいたします。
- ※ ご発表で動画を使用されるご予定の方は、事前にお知らせいただけますと幸いです。

3. 発表資料の公開について

①事前公開

- 本会議の約一週間前から、BECC JAPAN の Web サイトに参加登録者限定で公開いたします。
- ご提出いただける場合は、7月15日(金)までに info@seeb.jp 宛にお送りいただけますようお願いいたします。
- 7月16日以降もご提出は受付させていただきますが、本会議までに公開ページへの掲載が間に合わない場合がございます。何卒ご了承ください。

②事後公開

- 会議終了後、会議当日の発表資料と一部異なるものでも構わないことを前提として、BECC JAPAN の Web サイトで公開させていただきます(開催後半年ほどを参加登録者限定公開、のちに一般公開)。
 - 詳細は、会議終了後にあらためてご案内いたします。
- ※ 資料の公開が難しい場合は別途ご相談ください。

4. 当日のご発表に関するお願い

- 当日のご発表の映像は資料として録画し、本会議終了後に、参加者限定で一定期間(一週間程度を予定)配信を行います。あらかじめご了承ください。

5. セッション会場への入室および環境テストについて

- ご発表いただくセッション会場へは、余裕をもったご入室（ブレイクアウトルームを選択し、ご自身の発表会場（ルーム A またはルーム B）に入室）をお願いいたします。



- 会場へご入室される際は、表示名を『【発表番号】お名前（ご所属）』の書式に設定していただきますようお願いいたします（例：【A2-1】住環太郎（住環境計画研究所））。※セッション終了後は表示名から『【発表番号】』を外していただきますようお願いいたします。
- セッション開始 5 分前になりましたら、カメラ・マイク・画面共有の環境テストを実施いたします。お名前をお呼びした方から順番に、スタッフの案内に従ってテストを行っていただきますようお願いいたします。
※ご入室が遅れた場合、時間の都合上テストを行っていただけない場合がございますので、ご注意ください。

6. 発表開始時・終了後について

- 発表開始の際、司会よりお名前と発表タイトルの紹介がありますので、その間にカメラとマイクをオンにし、画面共有を開始してください。
- 発表は司会からの合図で開始してください。
- 発表終了後は、司会からの合図に従って、画面共有・カメラ・マイクをオフにしてください。

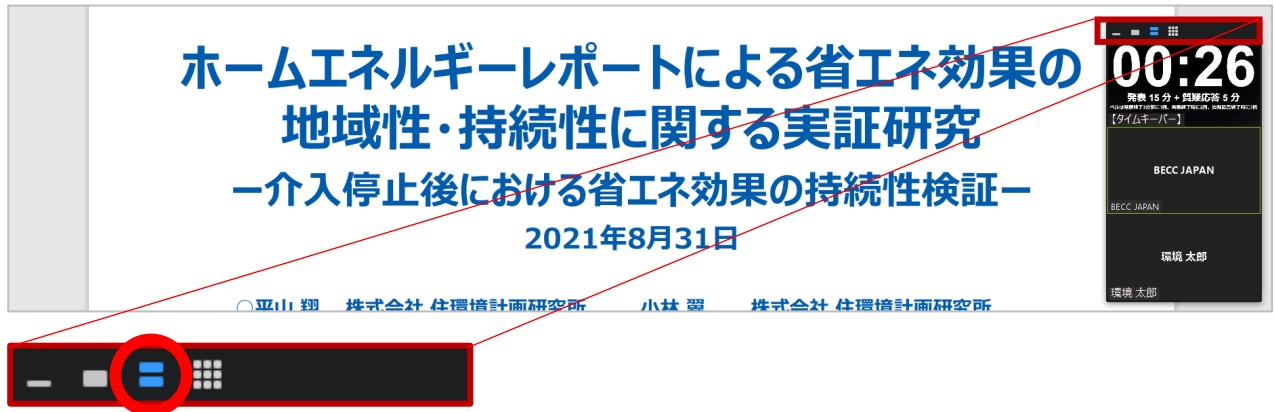
7. 質疑応答について

- 質問のある方よりチャットでご質問いただき、司会よりランダムに選定いたします。発表者の皆様には口頭でご回答をお願いいたします。
※ 時間内に回答しきれなかった質問については、別途、専用フォームを使用して寄せていただき、後日テキストベースでご回答をお願いさせていただきます。こちらの内容は、参加者限定公開で BECC JAPAN の web サイトに掲載予定です。

8. 発表時間厳守のお願い

- スムーズな進行にご協力いただき、所定の時間内でご発表いただけますようお願いいたします。
- 発表時間は下記の通りです。
■発表時間（1 件当たり）：発表 8 分、質疑応答 2 分
発表終了時間 3 分前に 1 鈴（5 分）、発表終了時に 2 鈴（8 分）、質疑応答終了時に 3 鈴（10 分）
- なお、ご発表中は、運営側よりカウントアップタイマーの画面をカメラ機能を使用して共有させていただきます。経過時間のご確認にご利用ください。（次頁図参照）
- ご発表いただいている間もタイマー画面をご確認いただけるよう、右から 2 つ目のアイコン（サム

ネイルビデオを表示) を選択していただきますようお願いいたします。※右から3つ目または4つ目のアイコンを選択すると、タイマー画面が隠れてしまいます。



9. 不慮の事態の対処について

- 発表途中や待機中にインターネット環境が不安定になるなどし、会場から退室してしまった場合は、再度ご入室を試していただきますようお願いいたします。
- 再入室していただきましたら、入室確認のため、『👋手を挙げる』機能より挙手をしていただきますようお願いいたします。確認がとれましたら、運営側より挙手を下げさせていただきます。発表の再開の案内は司会または副司会より行いますので、案内があるまで画面共有・カメラ・マイクをオフのままお待ちください。
- 何らかのトラブルが起き、復旧が困難と見受けられました場合、次の発表者の方を繰り上げてご発表いただくといった対応を取らせていただく可能性がございます。大変恐れ入りますが、当日ご発表の順番が急遽変更になる可能性がありますこと、あらかじめご了承くださいと幸いです。

10. 当日の緊急時等連絡先

- 事務局連絡先
池田：080-7027-0969

以上

気候変動・省エネルギー行動会議 事務局
〒102-0094 東京都千代田区紀尾井町 3-29
紀尾井町アーケビル 3 階 (株)住環境計画研究所内
担当：森、池田
Tel:03-3234-1177 / Email:info@seeb.jp

■ 本会議 2022年7月28日(木) オンライン開催

時間	プログラム	
9:00~9:30 (30分)	開会挨拶・来賓挨拶	
9:30~10:30 (60分)	基調講演(発表・質疑応答含む)	
10:30~10:40	休憩(10分)	
10:40~11:40 (60分)	ポスター発表セッション	
11:40~12:10	休憩(30分)	ランチ休憩(100分)
12:10~13:10 (60分)	スポンサーセッション	
13:10~13:20	休憩(10分)	
	ルーム A	ルーム B
13:20~14:20 (60分)	<u>A1 口頭発表セッション①</u> “スマートタウン/DR” ※20分/件×3件	<u>B1 口頭発表セッション②</u> “サステナブル社会/カーボンフットプリント” ※20分/件×3件
14:20~14:30	休憩(10分)	
14:30~15:30 (60分)	<u>A2 ライトニング発表セッション①</u> “コミュニケーション/省エネサービス” ※10分/件×6件	<u>B2 ライトニング発表セッション②</u> “ビッグデータ/ライフスタイル” ※10分/件×6件
15:30~15:40	休憩(10分)	
15:40~16:40 (60分)	<u>A3 口頭発表セッション③</u> “住宅” ※20分/件×3件	<u>B3 口頭発表セッション④</u> “環境配慮行動” ※20分/件×3件
16:40~17:30	交流会	

※口頭発表時間(1件当たり): 発表15分、質疑応答5分

※ライトニング発表時間(1件当たり): 発表8分、質疑応答2分

■ プログラムの詳細

■ ルーム A

A1	口頭発表セッション①	
	スマートタウン/DR 司会：前真之（東京大学）	
	A1-1	スマートタウン居住者のエネルギー消費に関する実態調査 市村知輝（東京工業大学 環境社会理工学院 修士課程 修了）
	A1-2	家庭向けデマンドレスポンス実証実験 田中洋一（東邦ガス株式会社 技術研究所 課長）
	A1-3	GXによる脱炭素プラットフォーム 岩崎哲（株式会社アイ・グリッド・ラボ 取締役 CTO）

A2	ライトニング発表セッション①	
	コミュニケーション/省エネサービス 司会：八木田克英（東京大学）	
	A2-1	環境訴求マーケティングの効果 秋谷祐二（株式会社インテージ カスタマービジネスドライブ本部企画分析 2 部 環境分野アナリスト）
	A2-2	心理効果を用いた避難誘導表現による正常性バイアス抑制に関する研究 斉藤瑠加（早稲田大学大学院 創造理工学研究科）
	A2-3	北海道における高効率エアコン選択を促すメッセージ手法の検証 土屋友和（株式会社住環境計画研究所 研究員）
	A2-4	北海道における暖房の効率的利用を促すメッセージ手法の検証 小林翼（株式会社住環境計画研究所 研究員）
	A2-5	家庭エコ診断制度における WEB サービスを活用した普及促進 佐伯朗彦（地球温暖化防止全国ネット）
	A2-6	住宅のエネルギー管理からクリーンなピークリソース管理への進化～海外での家庭向け行動型プログラムから学びと考察～ 小林浩人（日本オラクル株式会社 Opower 日本統括）

A3	口頭発表セッション③	
	住宅 司会：日高一義（東京工業大学）	
	A3-1	CASBEE 健康チェックリストによる断熱改修動機づけに関する研究 坊垣和明（東京都市大学 名誉教授）
	A3-2	家庭用水素蓄電システムに対する太陽光発電実施世帯の考え方 加藤尊秋（北九州市立大学 教授）
	A3-3	住宅居住者の生活意識と窓及び窓付属物の運用状況に関する実態調査 辻果歩（東京大学大学院 工学系研究科 修士課程）

■ ルーム B

口頭発表セッション②	
サステナブル社会/カーボンフットプリント 司会：坊垣和明（東京都市大学）	
B1	B1-1 ドイツ滞在から探るサステナブル社会に向けたゲーミング開発 杉浦淳吉（慶應義塾大学 文学部 教授）
	B1-2 環境・サステナブルへ配慮のある商品やサービスに関する消費者の受容性 天野晴子（日本女子大学 家政学部 教授）
	B1-3 日本における 1990 年から 2020 年までの家計消費による炭素排出インベントリーの時間的変動 板明果（東北学院大学 経済学部 准教授）

ライトニング発表セッション②	
ビッグデータ/ライフスタイル 司会：杉浦淳吉（慶應義塾大学）	
B2	B2-1 ビッグデータを用いた空調機利用実態の解明と日本産業規格との比較 杉山弦太（東京都市大学大学院 環境情報学研究科）
	B2-2 2050 年ゼロエミッション社会実現のためのエネルギー利用実態の解明～電力ビッグデータの解析による家庭部門エネルギー消費の実態解明～ 本田智則（産業技術総合研究所 ゼロエミッション国際共同研究センター 主任研究員）
	B2-3 東京都北区における食品ロス削減に向けたリデュースクッキングの取り組み～リデュースクッキングレシピの開発と普及～ 赤石記子（東京家政大学 家政学部 准教授）
	B2-4 あなた自身が生まれ変わらせる PET ボトルリサイクル～外出先でも PET ボトル分別を促すためのリサイクルボックスをデザインする～ 高雄綾子（フェリス女学院大学 国際交流学部 准教授）
	B2-5 エネルギーを多く消費する世帯のライフスタイル 甲斐聡（株式会社インテージ）
	B2-6 小学生を対象とした対戦型の住環境カードゲーム教材の開発に関する研究 古田祥一郎（早稲田大学大学院 創造理工学研究科）

口頭発表セッション④	
環境配慮行動 司会：松葉口玲子（横浜国立大学）	
B3	B3-1 食の脱炭素化に向けた食行動変容の可能性～情報提供による菜食への意識変化の分析～ 木村宰（電力中央研究所 上席研究員）
	B3-2 家庭におけるごみゼロ生活の実測調査及びごみ削減の可能性～ごみが出ない、出さない生活にどこまで近づけるか～ 三神彩子（東京ガス株式会社 都市生活研究所 所長）
	B3-3 サステナブル時代の暮らし方「マインドフルエコライフ」の提案～セグメント別行動変容促進のポイントを探る～ 笹岡恵梨（東京ガス株式会社 都市生活研究所 研究員）

■ ポスター発表

P-1	省エネルギーと電子レンジの効果的活用の検討～使用方法及びあたため直しに関する調査～
	荒木葉子(新渡戸文化短期大学 食物栄養学科 准教授)
P-2	生活者の環境意識・行動の現状と意向に関する調査～「意識してがんばる」から「意識せずに自然にできること」へ～
	木村康代(東京ガス株式会社 都市生活研究所 研究員)
P-3	スマートフォンアプリによる省エネルギー効果のフィードバックに関する研究
	梅原周(九州大学大学院 人間環境学府 大学院生)
P-4	ナッジを都市に織り込む～まちなかなッジプロジェクトの取組～
	植竹香織(ポリシーナッジデザイン 代表)
P-5	省インフラで脱炭素・資源循環のまちづくりを～地域コミュニケーションでNIMBYをYIMBYに変えた事例から～
	福田一成(アズビル株式会社 ビルシステムカンパニー マーケティング本部 シニアアドバイザー)
P-6	建築とまちづくりにおけるSDGsカードゲーム型教材の開発～建築とまちづくりにおけるSDGsカードゲーム型教材の開発～
	関根海央(早稲田大学大学院 創造理工学研究所 大学院生)
P-7	ゴミ箱ラベルによるゴミ分別・ゴミ削減
	三浦輝久(電力中央研究所 グリッドイノベーション研究本部 上席研究員)
P-8	スイッチ近傍への情報設置による不在時点灯時間の短縮化
	糸井川高穂(宇都宮大学 助教)
P-9	幼稚園の園庭における幼児レベルの屋外温熱環境に関する研究
	范理揚(日建設計総合研究所 研究員)